第64回

感じよう　森のめぐみと　緑の豊かさ

全国植樹祭

とっとり 2013

基 本 計 画（案）

鳥 取 県

目　次

第1章　開催概要
1　開催方針 ……1
2　開催理念 ……2
3　県民運動について ……3
美鳥の大使による美しい国づくり運動の概念 ……4
4　大会テーマ ……5
5　シンボルマーク ……5
6　大会ポスター原画 ……5
7　開催時期 ……6
8　主催 ……6
9　開催規模 ……6
10　開催地概要 ……6

第2章　式典行事計画
1　基本方針 ……8
2　式典演出計画 ……9
3　式典進行プラグラム ……9

第3章　植樹行事計画
1　基本方針 ……10
2　お手植え計画 ……10
3　お手播き計画 ……13
4　代表者記念植樹計画 ……14
5　参加者記念植樹計画 ……15
6　植樹会場の森林づくりの方向性 ……16
7　植樹会場整備計画 ……17

第4章　会場整備計画
1　基本方針 ……19
2　施設配置計画 ……19
3　主要施設計画 ……21
4　サイン計画 ……22
5　飾花計画 ……23
6　電気・給排水・通信設備計画 ……23

第5章　運営計画
1　基本方針 ……24
2　招待計画 ……24
3　参加者行動計画 ……26
4　受付計画 ……27
5　特別接伴・接遇計画 ……29
6　会場内動線計画 ……30
7　会場おもてなし計画 ……31
8　昼食計画 ……32
9　医療・衛生計画 ……32
10　消防・防災・警備計画 ……33
11　実施本部計画（実施本部体制案） ……34
12　研修リハーサル計画 ……35
13　雨天時・強風時対応計画 ……35

第6章　宿泊・輸送等計画
1　基本方針 ……36
2　宿泊計画 ……37
3　輸送計画 ……38
4　視察計画 ……41

第7章　荒天時式典計画
1　基本方針 ……42
2　会場 ……42
3　参加者一覧 ……42
4　荒天時運営計画 ……43

第8章　県民運動計画
1　基本方針 ……45
2　運動の進め方 ……45
3　運動の内容 ……45

第9章　記念事業等計画
1　基本方針 ……46
2　記念事業等の内容 ……46
3　関連事業等の内容 ……47

第10章　広報・協賛計画
1　広報計画 ……48
2　協賛計画 ……49

１　開催方針

（1）はじめに

全国植樹祭（第20回大会までは「植樹行事並びに国土緑化大会」、第21回大会からは現行の「全国植樹祭」が正式名となっている。）は、公益社団法人国土緑化推進機構と開催都道府県の共催により、昭和25年以降、持ち回りで開催されており、これまでこの大会では、天皇皇后両陛下にご臨席を賜り、県内外から多くの参加者にお集まりいただき、式典行事や記念植樹などが行われています。

鳥取県では、昭和40年5月9日、天皇皇后両陛下をお迎えし、第16回全国植樹祭を大山町で開催しました。この大会では、両陛下が、大山町上槇原においてダイセンマツをお手植えになるとともに、大山町博労座においては、ダイセンマツ、オキノヤマスギのお手播きをいただきました。また、参加者１万余人により上槇原でダイセンマツ32,000本（8ha）の記念植樹が行われました。

（2）開催意義

県土の73%を森林が占める鳥取県は、古くから森林に恵まれ、妻木晩田遺跡や青谷上寺地遺跡等の古代・木の文化が発祥しました。

鳥取県で開催された第16回全国植樹祭は、「林種転換による拡大造林」をテーマに開催され、各地で植林が行われ豊富な森林資源の造成と林業・木材産業の活性化が図られ木の文化を継承する契機となりました。

しかし近年では、長引く木材価格の低迷、山村の過疎・高齢化の進行等により林業離れが加速し、全国的に手入れの行き届かない人工林が増加しています。また、前回大会でのお手植え樹種であったアカマツは、その後のマツクイムシ被害の急速な拡大により、県内マツ林の機能低下を招きました。

その他、里山の放置によるシカ等の獣害、放置竹林の繁茂、カシノナガキクイムシによるナラ枯れなど、新たな被害も拡大し、森林としての機能が急速に失われつつあります。

平成25年の全国植樹祭は、森林の機能を復活させるために、木材資源の循環利用を図りながら、県民全体で推し進める森林づくりのモデル林を整備し、「持続可能な森林づくり」を始める契機として開催します。

〔持続可能な森林づくりのイメージ〕

2　開催理念

京都議定書の発効以降、森林のCO2吸収機能への国民的関心は高まっており、県内各地では「とっとり共生の森」や「森林環境保全税」、カーボンオフセットを活用した森林整備を始めとする、企業や県民による森林保全活動の輪が広がりつつあります。

また、平成23年に開催されたCOP17において、平成25年から森林吸収量の算定手法に、新たに自国産の伐採木材製品に含まれる炭素量が認められることとなり、森林の果たすべき役割が益々重要となってきます。

このような中、平成25年に開催する全国植樹祭では、環境先進県「とっとり」の活動を県内外に発信し、今後更に森と親しみながら共生していく社会の実現を目指します。

■平成22年：国際生物多様性年

COP10（生物多様性条約第10回締約国会議）名古屋で開催。生物多様性損失に対する国民の危惧が今まで以上に高まる。

■平成23年：国際森林年

持続可能な森林経営等について、認識を高めるよう国際的な取り組みの実施。

【世界情勢】

■平成25年：京都議定書第二約束期間のスタート

「国際森林年」の平成23年に南アフリカで開催されたCOP17で、約束期間が切れる京都議定書を平成29年末までの5年間、または平成31年末までの7年間延長する第二約束期間を実施。

平成32年（2020年）に大排出国である中国や米国を含めた新たな枠組みの発効を目指す。

【日本の動き】

■平成25年：新たな環境戦略のスタート

京都議定書の延長には参加しないものの、引き続き温室効果ガスの排出削減努力を続ける。

COP17では、森林吸収量の算出手法において間伐や植林のほかに新たに自国産の伐採木材製品に含まれる炭素量が認められることとなり、森林吸収源対策として間伐などの森林整備を更に推し進める。

環境先進県「とっとり」をアピール

□平成25年：第64回全国植樹祭鳥取県開催

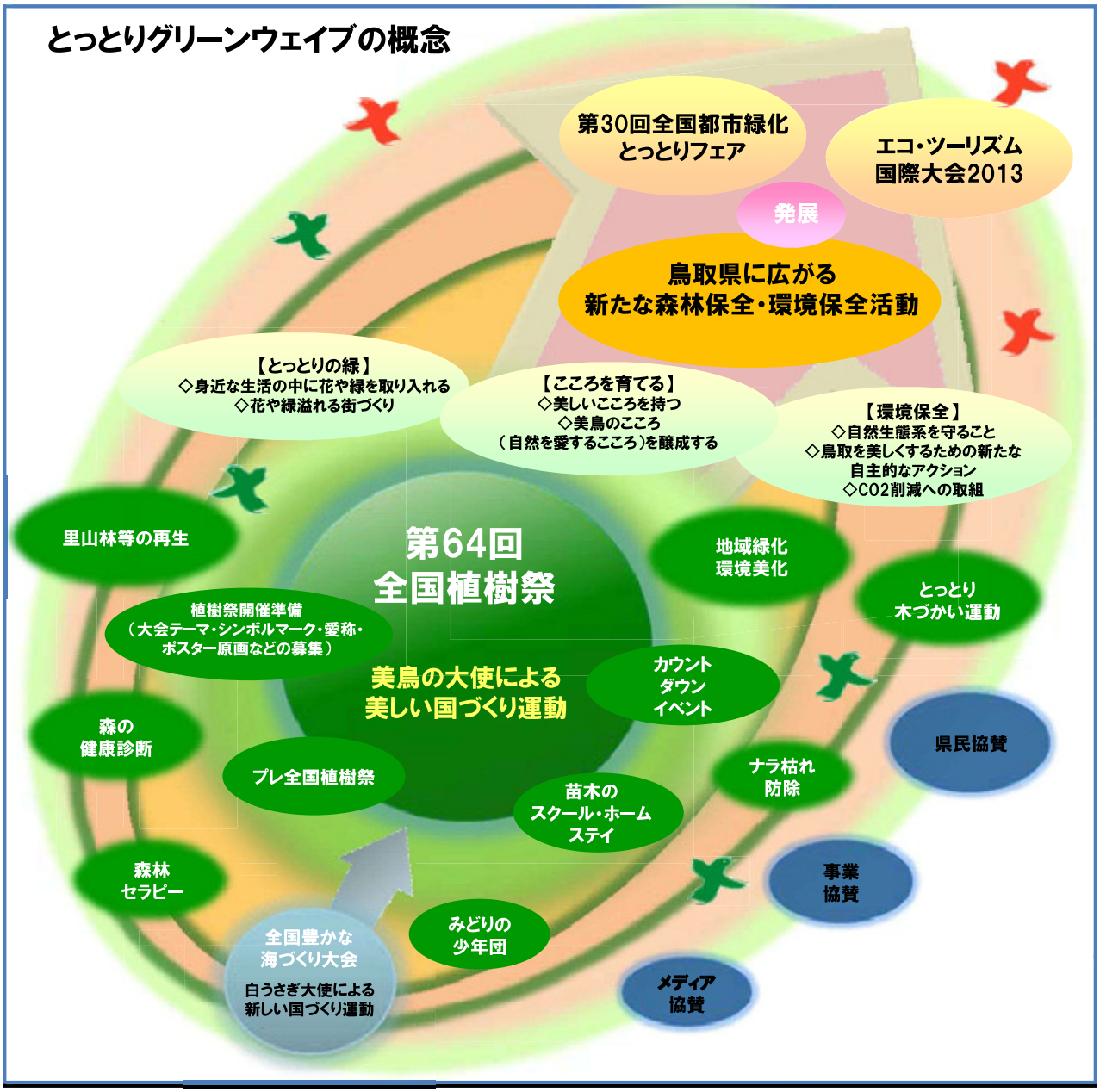
持続可能な森林づくりによる地球環境の保全や、里山林等森と親しみながら共生してゆくライフスタイル、就業スタイル等の

「心癒される森林づくり」を推進します。

3　県民運動について

○第64回全国植樹祭の開催を契機に、県民、企業、ボランティア等の多くの皆さんが環境保全活動に取り組み、自ら行動する県民運動**「とっとりグリーンウェイブ」**の気運を醸成し、緑豊かな鳥取県から環境の良さを全国にアピールする県民運動として発展させ、県民運動の中心となる人々を**「美鳥の大使」**と位置付けます。

○美鳥の大使による県民運動は、第64回全国植樹祭と同じ平成25年に鳥取県で開催される「第30回全国都市緑化とっとりフェア」「エコツーリズム国際大会2013in鳥取」へと発展・承継させ、環境日本一の鳥取県を目指します。



＜美鳥の大使が目指すもの＞
　地域で取り組む植樹や育林、木づかい運動、環境美化、水産業振興、緑や自然を生活に取り入れたり親しんだりする活動などに取り組む人々が相互につながり合い、県全体にその輪が拡がる運動とする。

〔美鳥（みどり）の大使による美しい国づくり運動の概念〕

新たな国造り運動に参加する白うさぎ大使から「引き継ぐDNA」

Dynamic　力強い
Nature　自然界
Advance　前進

継承

全国植樹祭「とっとりグリーンウェイブ（県民運動）に参加いただく
すべての県民が「広めるDNA」

美鳥（みどり）の大使による美しい国づくり運動

波及・拡大

Daily　日常の
Near　身近な
Action　行動

継続

全国植樹祭終了後も継続した取り組み（ポスト植樹祭）を行う
すべての県民が「進化させるDNA」

進化

◆植樹会場の手入れ
（花回廊・鏡ヶ成高原）
◆地域植樹会場での
体験型イベント等

Discover　発見
Newborn　新生
Activity　活動

◆第30回全国都市緑化
とっとりフェア
◆エコ・ツーリズム
国際大会2013

第64回全国植樹祭開催後も「美鳥の大使」のDNAを広め進化させる
県民総参加による美しい国づくり（森林づくり）を推進。

4　大会テーマ

「感じよう　森のめぐみと　緑の豊かさ」

（作者：宇田川　栞（うだがわ　しおり）さん　（鳥取県立米子南高等学校2年生）

〔講評〕

森のめぐみや緑を守り育ててくれた先人への感謝の気持ちと、緑の豊かさを次代に継承していこうという強い メッセージがこめられています。

5　シンボルマーク

【シンボルマーク】
※全国公募により選定しました。

○制作意図
鳥取県の鳥と樹木を合わせたデザインで、全体の輪郭は大山の形もイメージさせ、首から提げた双眼鏡に は森の観察を呼びかけるメッセージが込められています。
また、胸のハートマークで大会テーマ「感じよう　森のめぐみと　緑の豊かさ」を表現しています。

○作者
伊藤　うちゅぷ（いとう　うちゅぷ）さん　※ペンネーム
（千葉県八千代市）

〔マーク〕

【シンボルマーク愛称】
※鳥取県内在住の方を対象に募集し、選定しました。

○制作意図
「鳥取」と「木」を組み合わせ、インパクトのある親しみやすい愛称にしました。

○作者
武海　博華（たけうみ　ひろか）さん
（鳥取県西伯郡南部町）

〔愛　称〕
「トッキーノ」

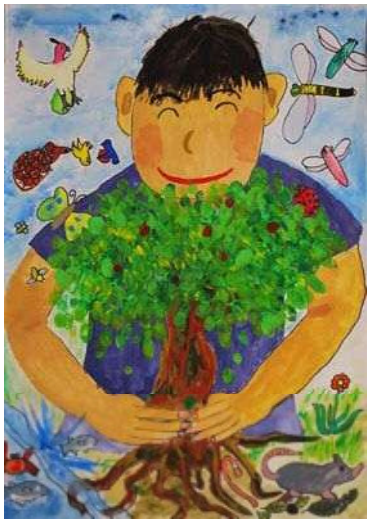
6　大会ポスター原画

※鳥取県内の小学校・中学校・高等学校及び特別支援学校の児童生徒を対象に募集し、選定しました。

○制作意図
緑や生き物に囲まれて、笑顔で生活できる喜びを表現しました。

○作者
中家　秀斗（なかいえ　しゅうと）さん
（鳥取市立西郷小学校　5年）

〔画　題〕 自然がいっぱい



7　開催時期

平成25年春季

8　主　催

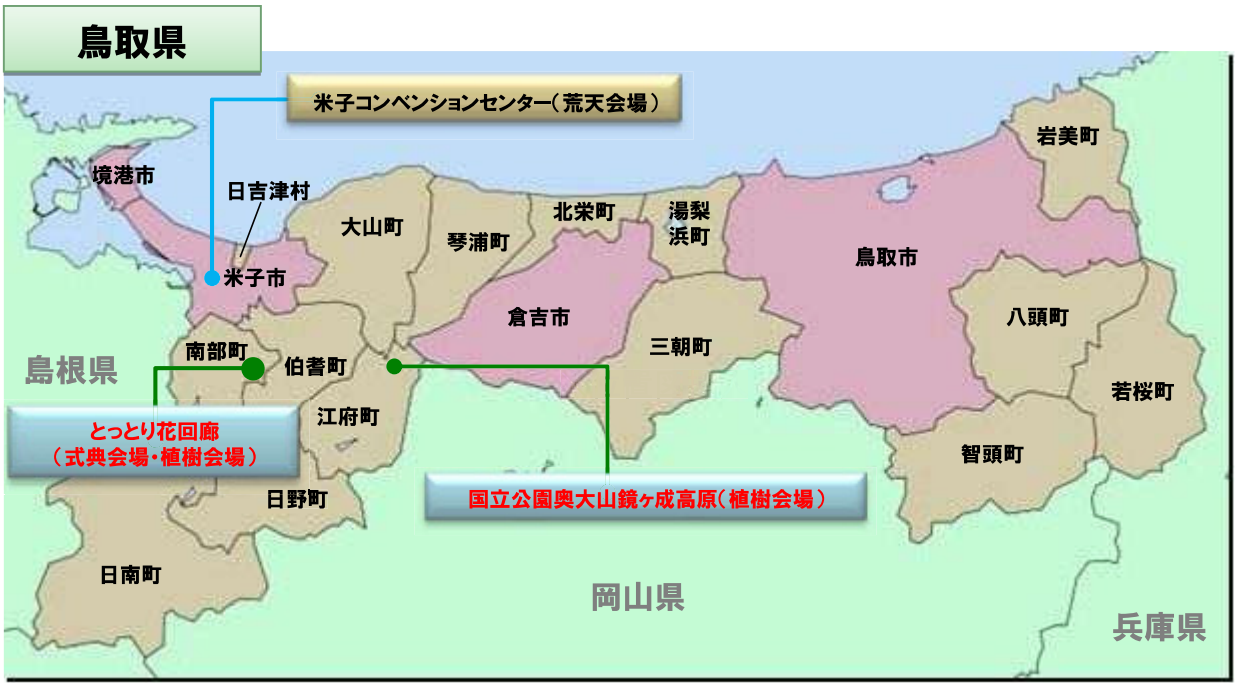
公益社団法人国土緑化推進機構、鳥取県

9　開催規模

お手植え行事及び式典行事の参加者数は、5,000人程度の県内外招待者と、2,000人程度の県内協力者及びスタッフ等としますが、荒天の場合は、1,000人程度の招待者とします。

区　　分	参加予定者数	備　　考
県外の招待者	1,500人	国関係者、被表彰者、他県参加者等
県内の招待者	3,500人	県議会、市町村関係者、緑化関係団体、公募参加者、県実行委員会等
本部員・協力員・スタッフ	2,000人	実施本部員、出演者、運営ボランティア等
総　　計	7,000人	

10　開催地概要



（1）式典会場・植樹会場

式典会場：とっとり花回廊（南部町鶴田　5,000人が参加）

植樹会場：とっとり花回廊いやしの森（伯耆町小野　式典参加者のうち4,500人が参加）

県立の施設として1999年４月に開園した、大山を間近に望む日本最大級（約50ヘクタール）のフラワーパーク。多彩な植え替え花壇、大温室「フラワードーム」や展示館、周囲1kmの屋根付き展望回廊など、天候に左右されず一年中花が楽しめます。自然の起伏や森林を活かした広大な自然環境の中、季節の移り変わりを存分に味わうことができます。開園時からオランダの世界的な花の名園「キューケンホフ公園」と交流しており、2010年に姉妹公園の覚書を締結しました。

フラワードーム

花の谷(キューケンホフコーナー)

（2）植樹会場

国立公園　奥大山鏡ヶ成高原（江府町鏡ヶ成　500人が参加）

烏ケ山の南麓に広がる大平原で、清流の流れる渓谷とブナをはじめとする森に囲まれた標高900m前後の景観優美な高原です。高原の上方は、国民休暇村やキャンプ場が整備され、冬はスキー、夏は避暑地として人気があり、下方は広大な農地に開拓されているほか、豊かな水を活かしてミネラルウォーターが生産されています。

休暇村　奥大山

渓谷で水に親しむ子どもたち

1　基本方針

○大会テーマ「感じよう　森のめぐみと　緑の豊かさ」を、参加者や全国の人々に分かりやすく伝え、魅力あるふるさと「とっとり」を支える豊かな自然や森林の役割を発信します。

○「森は海の恋人」と云われるように、きれいな海を守るためには豊かな森が必要であるという、森・川・海のつながりを表現します。

○豊かな自然に囲まれた大山の雰囲気を活かして、鳥取の自然の魅力や歴史、文化、産業を全国にアピールし、「また鳥取に行きたい」と感じてもらう構成とします。

○環境に配慮された手作りの式典とします。
　◇「とっとり共生の森」参加企業等環境先進企業、NPO、多様なボランティアによる協力。
　◇式典を通じて排出されたCO^2を、鳥取県が認証取得したJ-VERで相殺します。
　　※J-VERとは：環境省オフセット・クレジット（J-VER）制度により認証された、CO^2の削減・吸収クレジットのこと。

○多様なボランティア、子ども達、高齢者、障がい者など多くの県民や、大会に賛同いただいた企業等が参加できるよう配慮し、県内緑の少年団等の協力を得ながら、鳥取らしく来場者を温かくおもてなしし、歓待します。

○司会者、式典進行介添え役、式典音楽隊、アトラクション等の出演者及び演出家等については、地元をはじめ、県内関係団体等の積極的な協力と参加を得て編成します。

◎演出展開イメージ

2　式典演出計画

○式典の構成は、プロローグ、記念式典、エピローグの3部構成とします。

区分	演出テーマ	演出の意図
プロローグ	第一楽章　はじまり	○参加者を歓迎する気持ちを表現する内容とし、鳥取の豊かな自然や文化、森林・林業・木材産業の紹介や県民が参加する創作劇等のアトラクションを実施します。
記念式典	第二楽章　はぐくみ	○天皇皇后両陛下によるお手植え、お手播き、国土緑化功労者等の各種表彰、大会宣言、次期開催県へのリレーセレモニー等を行います。 ○大会宣言等は開催理念を、わかりやすく表現します。
エピローグ	第三楽章　はばたき	○参加者を送迎しつつ、未来へのメッセージを伝え、全員でその意味を確認し、全国に発信します。

3　式典進行プログラム

時間	区分	プログラム	進行内容
10:15	プロローグ	プロローグ案内	鳥取県の豊かな自然と、その自然に培われた歴史・文化・産業等を表現
		歓迎演出	
10:50		記念式典のご案内	
11:00	記念式典	天皇皇后両陛下　御到着	
		開会のことば	
		三旗掲揚・国歌斉唱	
		主催者挨拶	
		表　　彰	森林や自然を育み守ってきた緑化功労者への感謝として表彰
		苗木の贈呈	
		天皇皇后両陛下のお手植え・お手播き	
		参加者代表記念植樹	
		大会テーマの表現	環境先進県とっとりが目指す森林づくり、「美しい国づくり運動」を発信し、大会テーマ「感じよう　森のめぐみと　緑の豊かさ」を創造的に表現
		大会宣言	
		リレーセレモニー	次期開催県への引継ぎ
11:50		閉会のことば	
		天皇皇后両陛下　御退席	
12:00 12:15	エピローグ	エピローグ案内	未来へのメッセージを発信し、来場者参加型演出により会場全体を盛り上げ
		エピローグ演出	

1　基本方針

○ 式典会場内に、お手植え所、お手播き所、代表者記念植樹地を設けます。

○参加者（代表者以外）の記念植樹は、とっとり花回廊（南部町鶴田・伯耆町小野）、及び国立公園奥大山鏡ヶ成高原（江府町鏡ヶ成）の各植樹会場で行います。

○植樹行事は、鳥取県の気候風土に適した樹種の植栽等、地域特性に応じた森林づくりを目指します。

○種子の採取から育成、植えつけまでを植樹ととらえ、森林づくり活動の拡大につなげていくきっかけとなるように、多様なボランティア、子供たち、高齢者、障がい者などを含む、できるだけ多くの県民や、「とっとり共生の森」参画企業等が参加できるようにします。

○県内で採取した種子を使って、「苗木のスクールステイ・ホームステイ」により子供たちや企業・団体等が育てた苗木や、生産者が育成した苗木を使用します。

○植樹会場は、永続的な県民運動の活動の場として、県民誰もが森林や自然にふれあい、学習、体験などができる森をつくります。

2　お手植え計画

○天皇皇后両陛下のお手植えは、お手植え所で「森」の字をかたどり、それぞれ3本の植樹とします。

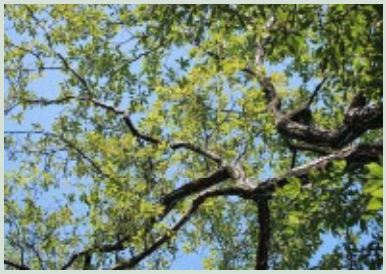
○樹種は、鳥取県の自然条件にあった在来の樹種の内、高木性を中心に県民に親しみのあるものとし、両陛下にそれぞれ3種類賜ります。

○お手植えされた記念樹は、森林づくり運動のシンボルとして、大切に管理・育成します。

〔お手植え樹種（6種）〕

アカマツ （とっとりパワー松）	スダジイ	コナラ
ヤマボウシ	ウワミズザクラ	ホオノキ

〔天皇陛下お手植え樹種（3種）〕

樹種	特徴・選定理由等
アカマツ **（とっとりパワー松）** 	・県内に広く自生し、とくに大山周辺のものは「大山マツ」として全国的に有名です。 ・県西部地域は、良質な砂鉄と豊富なマツ炭に恵まれ、かつては刀鍛冶が盛んでした。 ・県が開発した松くい虫に強い品種「とっとりパワー松」を、後継樹として植栽します。 ・アカマツは昭和40年に大山町で開催された第16回植樹行事並びに国土緑化大会（現在の全国植樹祭）において、昭和天皇・香淳皇后によってお手植えされた樹種です。
スダジイ 	・県内に広く自生する代表的な極相種（常緑広葉樹林の優占種）です。 ・昔から、鎮守の森など地域で大事に守られたことから巨樹巨木が多く、天然記念物に指定されています。 ・県中部の琴浦町には、幹回り11.4m、樹齢千年以上といわれる「伯耆の大シイ」があり、昭和十二年に国の天然記念物に指定されています。 ・実は渋がなく生で食べることが出来るので、縄文時代には貴重な食糧でした。 ・県西部にある国内最大級の弥生時代の集落「妻木晩田遺跡」では、竪穴住居の柱などの建築部材にも使われていました。
コナラ 	・県内の里山（二次林）を代表する樹種の一つで、ハハソ、ホウソ、ホウボウソなどの方言で呼ばれています。 ・萌芽更新が容易なことから、かつては燃料や肥料として利用されていました。 ・シイタケの原木栽培に多く用いられています。 ・樹液が豊富なため、夏になるとクワガタムシなどの昆虫が多く集まります。 ・秋にはドングリがたくさん出来、野生動物の豊富な餌資源となっています。

※写真は一部差し替え予定

〔皇后陛下お手植え樹種（3種）〕

樹種	特徴・選定理由等
ヤマボウシ 	・県内の山地に見られる落葉広葉樹の一つで、イツキ、ウツキなどの方言で呼ばれています。 ・初夏に黄緑色の小さな花が集まり球形の花序をつくり、その周りに白い4枚の総苞片が開くため、全体として一つの花のように見えます。 ・花に見える白い4枚の総苞片が開いた姿が、山法師のように見えるというのが名前の由来です。 ・秋には球状の赤い実をたくさん付け、野鳥が好んで食べます。
ウワミズザクラ 	・県内の山地に見られる落葉広葉樹の一つで、ハハカ、ネズラ、メズラ、ゴテンザクラなどの方言で呼ばれています。 ・普通の桜と異なり、春に総状花序を出し、白い花をたくさん付けます。 ・夏から秋にかけて赤い実がなり、野鳥が好んで食べます。 ・名前の由来は、古代、鹿の肩甲骨の裏側に溝をつけ、焼いた木（本種）を押しつけて占ったことから、ウラミゾ→ウワミゾ→ウワミズとなったという説があります。
ホオノキ 	・県内の山地に見られる落葉広葉樹の一つで、フデノキ、ホホバなどの方言で呼ばれています。 ・春から初夏にかけ、大きな緑色の葉の中心に、香りの良い大輪の白い花を咲かせます（日本最大）。 ・大きな葉は、昔から食べ物を包むのに利用されており、現在でも朴葉焼きなどに利用されます。 ・秋に赤い袋果をつけ、野鳥が好んで食べます。

3　お手播き計画

〇天皇皇后両陛下のお手播きは、お手播き所で、お手播き箱へそれぞれ2種類の播種とします。

〇お手播きの種子は、鳥取県の自然条件にあった在来の樹種の内、高木性を中心に県民に親しみのあるものとます。

〇お手播きされた種子は鳥取県が管理・育成し、県内公共施設等に広く「記念樹」として配布し、植樹いただきます。

〔お手播き樹種（4種）〕

クリ	ヤマザクラ
イロハモミジ	ヤマガキ

〔天皇陛下お手播き樹種（2種）〕

樹種	特徴・選定理由等
クリ 	・県内の里山を代表する樹種の一つです。 ・野生のいわゆる「シバグリ」で、本種を基に多くの栽培品種が作られました。 ・クリの実は、縄文時代の遺跡から出土しており、古来重要な食糧でした。 ・万葉集の、山上憶良が「瓜食めば子等思ほゆ、栗食めばまして思ばゆ」と詠んだ「子等を思ふ歌」が有名です。 ・現在でも、正月の縁起物として「勝ち栗」が用いられます。 ・材は、堅く腐りにくいため、枕木、建築材、器具材に用いられます。 ・県西部にある国内最大級の弥生時代の集落「妻木晩田遺跡」では竪穴住居の柱などの建築部材にも使われていました。
ヤマザクラ 	・国内を代表する野生の桜で、県内にも広く自生しています。 ・早春、葉と同時に花が開き、紅色の若葉と淡紅白色の花のコントラストが見事です。 ・秋の紅葉も見事で、晩秋の山を彩る樹種の一つです。 ・ナメコの原木栽培に多く利用されています。

〔皇后陛下お手播き樹種（2種）〕

樹種	特徴・選定理由等
イロハモミジ 	・県内に広く自生する落葉広葉樹の一つです。 ・公園や庭園などに多く植えられていることから、モミジの木として身近な樹種です。 ・本種を基に多くの園芸品種が作られています。 ・葉が指を開いた手のひらの形に5～7裂し、春の新緑と秋の紅葉が楽しめます。 ・イロハモミジの名前の由来は、イロハは7つの裂片を「イロハニホヘト」と順番に数えたことに由来しています。
ヤマガキ 	・日本の里山の原風景として思い浮かぶ代表的な樹種です。 ・秋に柿色の実をたくさんつけ、人も動物も好んで食べます。 ・実はビタミン類が豊富で、昔は栄養価の高い医者いらずの万能薬として重宝されていました。 ・ヤマガキの名前の由来は、実も葉も赤くなるので赤木（アカキ）と呼ばれ、その後「カキ」と呼ばれるようになったという説や、熟した果実が輝いて見えることから「カガヤク」が転じたという説、「噛む（かむ）」が「カキ」になったという説など諸説あります。

4　代表者記念植樹計画

○参加者代表は、天皇皇后両陛下の2本目のお手植えと同時に記念植樹を行います。

○場所は、特別招待者席前で行うものとし、それぞれ1本ずつ植樹を行います。

○植樹は、天皇皇后両陛下のお手植えと同じ樹種とします。

5　参加者記念植樹計画

○とっとり花回廊いやしの森（伯耆町小野）、及び国立公園奥大山鏡ヶ成高原（江府町鏡ヶ成）の各植樹会場で、地域特性等に合わせて選定された樹種を、未来の森をイメージしながら一人1本以上植樹いただきます。

○県外招待者は、記念式典開始前の午前中に植樹し、県内招待者は、午前・午後に分かれて植樹いただきます。

○植樹用苗木は、県内の児童等、県民が育てた苗木も使用します。

〔とっとり花回廊/参加者記念植樹樹種（25種程度）〕

アオハダ	アカガシ	アカマツ	アベマキ
アラカシ	イヌシデ	イロハモミジ	ウワミズザクラ
エゴノキ	エノキ	ヤマガキ	クリ
クロモジ	ケヤキ	コナラ	コハウチワカエデ
シラカシ	スダジイ	ホオノキ	マユミ
ムラサキシキブ	ヤブツバキ	ヤマザクラ	ヤマボウシ
ヤマモモ			

※50音順に記載

〔国立公園奥大山鏡ヶ成高原/参加者記念植樹樹種（20種程度）〕

アオハダ	アズキナシ	イタヤカエデ	ウリハダカエデ
ウワミズザクラ	オオカメノキ	クリ	クロモジ
コハウチワカエデ	サワグルミ	タニウツギ	ツノハシバミ
トチノキ	ナナカマド	ブナ	ホオノキ
ミズキ	ミズナラ	ミズメ	ヤマボウシ

※50音順に記載

6　植樹会場の森林づくりの方向性

○植樹会場の一区画に、「とっとり共生の森」参画企業の協力で、「とっとり連携の森」の植樹を行います。

○花回廊いやしの森では、第64回全国植樹祭に参加した子供たちが、記憶を永くとどめ、学習に役立ててもらうよう、展示植栽スペースを用意し、県木や市町村木等特別な樹種の植栽を行います。

○各植樹会場の植栽樹種は、自然条件や周辺環境の状況等に応じて、森林づくりの方向に即した樹種を植栽します。

○植樹後は、緑の少年団、ボランティア等が手入れを行い、その様子を全国発信します。

〔花回廊いやしの森／奥大山鏡ヶ成高原〕

〔将来イメージ〕

●交流の森

○四季の彩りを感じられる樹木を植栽
○イヌシデ、イロハモミジ、ウワミズザクラ、ヤマガキ、クロモジ、コハウチワカエデ、ホオノキ、マユミ、ムラサキシキブ、ヤブツバキ、ヤマザクラ、マヤボウシ、ヤマモモ

●学習の森

○子供たちがメモリアルとして、県木や市町村木等県内の代表的樹木を植栽。観察・学習展示林とする。
○ダイセンキャラボク、サザンカ、ブナ、ツバキ、クロマツ、サクラ、アカマツ、スギ、イチイ、カキ、トチノキ、ナシ

●体験の森

○果実等が小動物や鳥、昆虫の餌となる樹木を植栽。多様な生き物が生息する森とする。
○アオハダ、エゴノキ、エノキ、ヤマガキ、アカガシ、アベマキ、アラカシ、シバグリ、コナラ、シラカヒ、スダジイ

●生活の森

○暮らしの中で、薪炭、シイタケ原木、用材として利用可能な樹木を植栽。下狩りや落ち葉かき作業等で下層を整理。
○アカガシ、アラカシ、ケヤキ、コナラ、シラカシ、スダジイ

7　植樹会場整備計画

〔花回廊いやしの森〕

【現状】

里山利用（木立や枝葉・下草を、家庭用燃料や肥料として採取利用）が行われなくなったため、草木が乱雑にしげった「やぶ」状態になっています。

【整備計画】

○現地の植生を踏まえ、いやしの森全体を将来イメージの4つのゾーンに区分します。

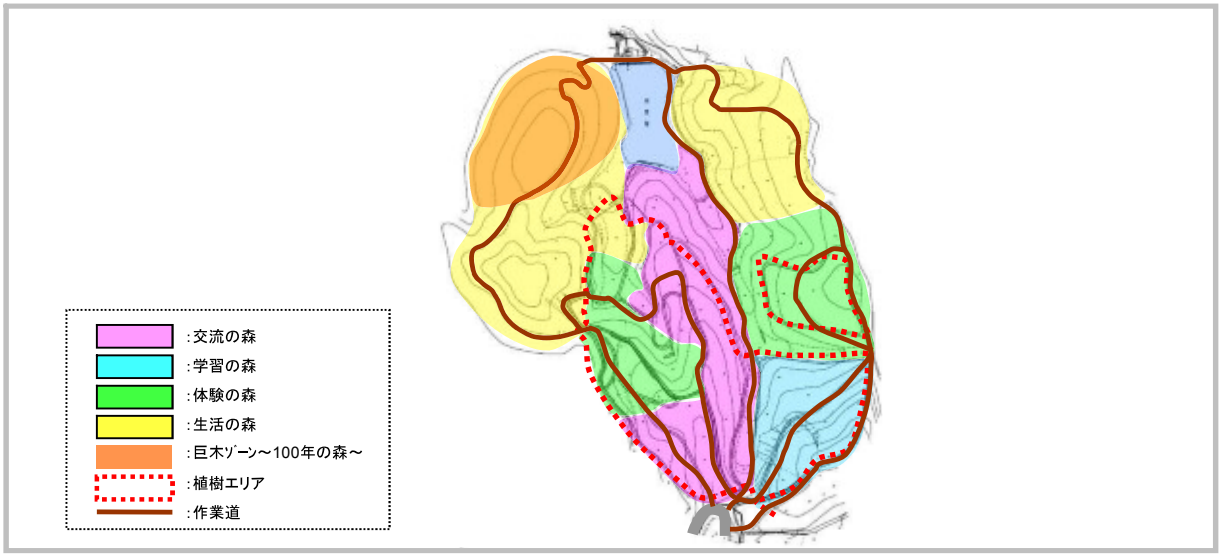
○会場は、薪、木炭、シイタケ原木となる木立や枝の採取、堆肥となる落葉や下草の採取、野生キノコやクリ等の果実の採取、四季折々の美しい花木の観賞、野鳥の観察、カブトムシやクワガタ等昆虫の観察等の場として利用可能であり、これら「里山のめぐみ」の体験フィールドとしての森林づくりを進めます。

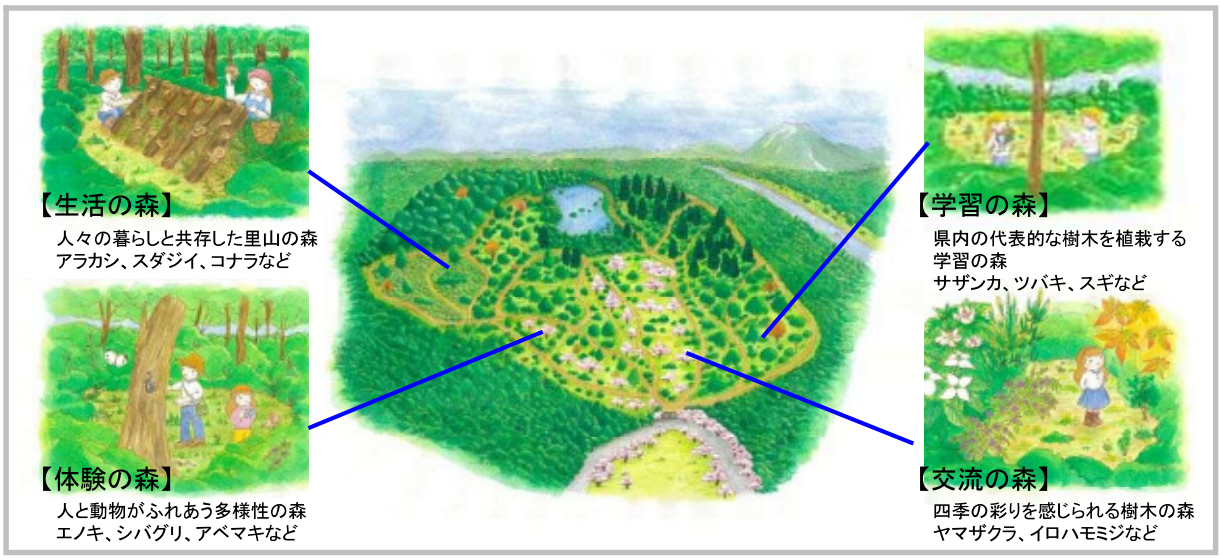
○やぶを整理し、植栽が必要となった区域を植樹会場に設定し、多様性を保ちながら各ゾーンにふさわしい植栽樹木を選定します。

○巨木に囲まれ多様性の高い区域は、現状のまま自然林として生かします。

○植樹祭時は参加者の動線を確保し、開催後は体験活動のサポートを図るため、地形に沿った環境に優しい鳥取式作業道による軽車道と間伐材チップをマルチングに活用した歩道を整備します。

〔将来イメージ〕





〔奥大山鏡ヶ成高原〕

【現状】

戦後の開墾地が放置され、一面のススキ野原となり、現状のままでは幼樹の進入が困難なため森林への復旧が困難な野原となっています。

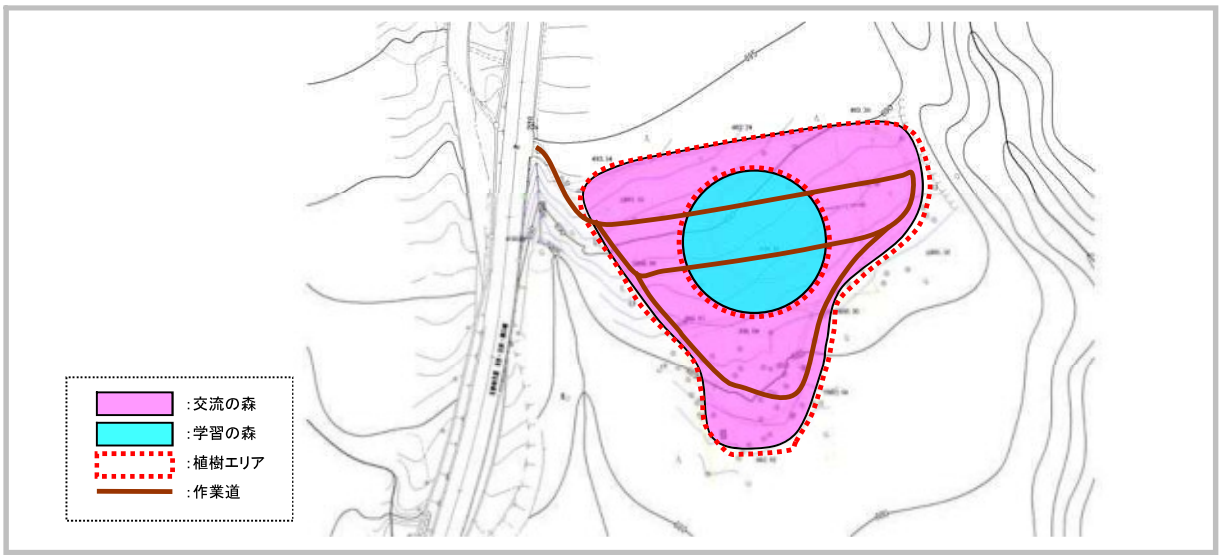
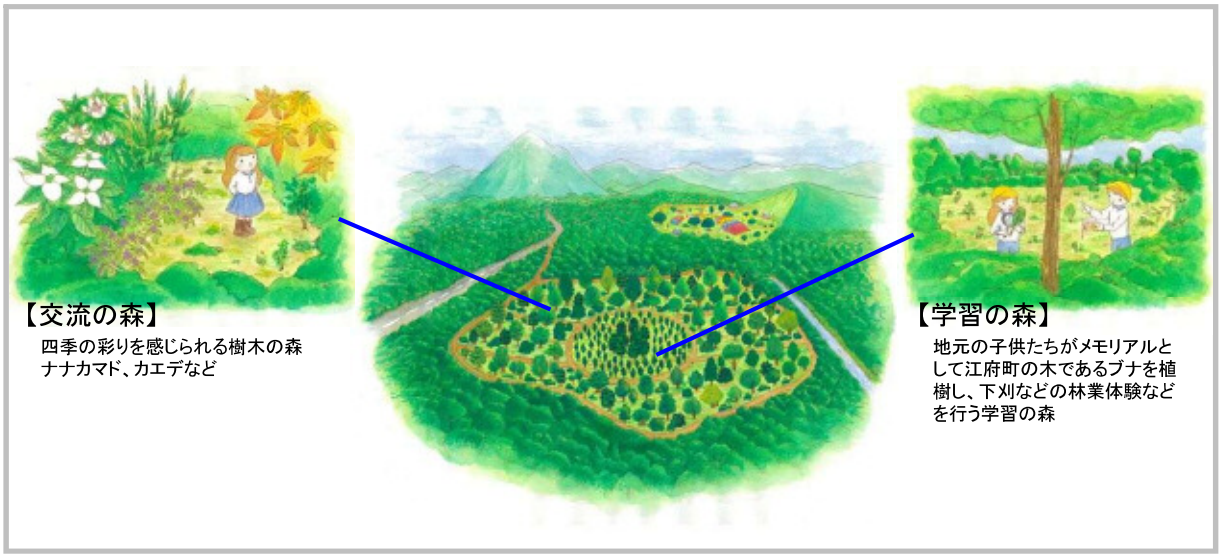
【整備計画】

○現地周辺の植生に配慮しつつ、ススキに覆われた原野を森林へ早急に戻す森林づくり を考えます。

○地元で始まっているブナの森づくり活動を展開する場として位置づけ、森林を2つのゾーンに区分します。

○区画全体の刈り払いを行い、ゾーンの区分けも兼ねた作業道及び歩道を整備し、中央に地元小・中学校の森林体験活動を行うゾーンを設置。これと外周の森林をつなぐ区域を植樹会場に位置づけます。

○植栽木の植樹木は、現地適正の高いナラ類とし、ミズナラ、ブナ、ホオノキ、トチノキ、ミズキ、カエデ類等を混植します。

○中央のゾーンは、子供たちが種から育てたブナの苗木を毎年継続的に植栽し、下刈りなど森林活動体験を行います。

〔将来イメージ〕